

第1学年 国語科学習指導案

指導者 濱田 真由美

1 単元名 のりものることをしらべよう 「いろいろなふね」

2 目標

- 乗り物に興味を持ち、進んで本を読んだりクイズを作ったりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- 調べたことをわかりやすく発表したり、友達の発表を聞いて感想を述べたりすることができる。 (話すこと・聞くこと)
- 説明のための基本文型を使って、好きな乗り物のクイズを作ることができる。 (書くこと)
- 教材文や乗り物について書かれた本の内容の大体を読み取ることができる。 (読むこと)
- 新出漢字や新出片仮名を、正しく読んだり書いたりすることができる。 (言語事項)

3 単元について

(1) 教材について

本教材「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持ったいろいろな船の役目と構造を関連付けて考えられるように書かれている。児童は、書かれている事柄の順序を考えながら教材文の内容の大体を読み取るとともに、説明文の基本的な文型の使い方を学習する。また、児童の興味・関心の高い題材が取り上げられており、主体的な理解・表現活動を促すことができる。さらに、教材文の読み取りの後、自分が興味を持って調べた乗り物について、クイズにまとめ発表する学習を展開することで、読む力を高めるとともに、話す・聞く・書く力を育てることができる単元である。

(2) 児童の実態 (男8人、女4人、計12人)

児童一人一人の言語事項に関する定着の度合いや自分の言葉で表現する力、話す・聞く力は、個人差差が大きい。発表やスピーチなどみんなの前で話すことは好きだが、声が小さい児童がいるので、「声のものさし」を活用し、話す時の声の大きさを意識づけたい。聞くことに関しては、集中力が持続せず、話を最後まできちんと聞くことが苦手な児童もいる。「聞き方あいうえお」を活用し、注意を促していく。音読は、句読点や文節に気を付け、リズムを感じながら音読できる児童が多い反面、拾い読み段階の児童もあり、それが内容を読み取る力の差にも現れている。そこで、個別に支援していくとともに、読み取る内容項目ごとに色別カードや付箋紙を活用して、児童が本文を読み取ることができるようになる。また、グループ学習やペア学習など少人数で活動する時間を設け、友だちと交流したり相互評価したりし、自分の活動を振り返りながら学習を進めていくようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、初めに、船のビデオを見せてイメージをつかまるとともに、学習計画をしっかりと立てさせ、見通しをもって学習が進められるようにする。教材文の読み取りでは、文章の内容構成の特徴に着目させ、どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序(やくめ・つくり・できること)に沿って、内容の大体をとらえられるようにする。その際、それぞれの船の役目や構造について、色別カードにまとめていくようにし、書かれている内容を正しく読み取ることができるようにする。

教材文の読み取りの後、クイズを作る活動では、まず初めに、乗り物について書かれている本を自由に読ませる。詳しく読むのではなく、どんな乗り物があるか大まかにとらえられるよう、できるだけ多くの種類の本を友達と交換しながら読ませるようにする。ブックトークをし、活発な読書活動を促していく。クイズ作りでは、教材文で学んだ基本文型を生かして、乗り物の役目と構造をきちんと押さえたクイズを作れるよう、読み取りでも活用した色別カードにまとめていく。また、作ったクイズを友達と一緒に見直す場を設定し、付箋紙を活用して意見や感想を自由に交流させながら作業を進めていく。友達からのアドバイスや教師から示された見直しの観点を参考にして、よりわかりやすいクイズに修正していくようにし、発表への自信につなげたい。

話す活動においては、発表練習の時間に、鏡を使って口形について確認する活動を全体で行う。また、カセットテープに録音してペアで話し方を相互評価できるようにし、よりよい話し方ができるように支援していく。「乗り物クイズ大会」には、職員室の先生方や保護者を招待することとし、最後まで目的意識・相手意識を持って主体的に学習に取り組めるようにする。

これらの活動をとおして、話す・聞く・書く力を養い、伝え合う力を育てていきたい。

(4) 研究テーマとの関連

伝え合う力を育てるために、教材文の読み取り後、乗り物の本を自由に読み、調べたことをクイズにまとめ、クイズ大会を開いて交流し合う展開とする。学習の見通しや目的意識・相手意識をしっかりとさせ、児童の「伝えたい」という思いを高めていくようにする。また、書くことを通して、自分の考えをまとめたり、活動を振り返ったりするようにし、自分の思いや考えを自信を持って話せるようにしていく。クイズを作る活動や発表の練習においては、ペアやグループで相互評価する場を設け、意見や感想を自由に交流させながら、よりよい発表へと高めていくようにする。

4 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
いろいろな乗り物の役目や構造に興味を持ち、進んで本を読んだり、クイズを作って発表したりしようとする。	調べたことをわざりやすく話したり、大事なことに注意して発表を聞いたりすることができる。	自分の好きな乗り物について、役目と構造を押さえたクイズを基本文型に沿って作ることができる。	教材文を正しく読み取ったり、乗り物の本を読んで必要な情報を得たりすることができます。	漢字や片仮名の読み書き、言葉の意味を正しく理解し、主語と述語の関係に注意して文章を書くことができる。

5 指導と評価の計画（15時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準と評価方法
1	・教材文を通読して内容の大体をつかみ、感想を交流する。	○知っていることや初めて知ったことを自由に発表させたり、いろいろな船のビデオや写真を見せたりすることで読み取りへの関心を高める。	ア 興味をもって教材文を読み、進んで学習に取り組もうとしている。 (発言・ノート)
2	・学習計画を立て、学習の見通しをもつ。	○教材文の読み取りをもとに、好きな乗り物について調べたことをクイズにすること、先生方や保護者を招待してクイズ大会を開くことを知らせ、目的意識や相手意識を持って学習に取り組めるようにする。	ア 学習の見通しと目的意識をもって、学習に取り組もうとしている。 (発言・ノート)
3	・「きやくせん」の役目と構造を読み取る。	○役目や構造に線を引いて色別カードにまとめ、「人を運ぶための船」であり、「客室や食堂がある」ことを押さえる。	エ 「客船」の役目や構造を読み取っている。 (発言・色別カード)
4	・「フェリーボート」の役目と構造を読み取る。	○役目や構造に線を引いて色別カードにまとめ、「人と車と一緒に運ぶための船」であり、「客室や車を止めておく所がある」ことを押さえる。	エ 「フェリーボート」の役目や構造を読み取っている。 (発言・色別カード)
5	・「ぎょせん」の役目と構造を読み取る。	○役目や構造に線を引いて色別カードにまとめ、「魚を捕るための船」であり、「機械や網を積んでいる」ことを押さえる。	エ 「漁船」の役目や構造を読み取っている。 (発言・色別カード)
6	・「しょうぼうてい」の役目と構造を読み取る。	○役目や構造に線を引いて色別カードにまとめ、「火事を消すための船」であり、「ポンプやホースを積んでいる」ことを押さえる。	エ 「消防艇」の役目や構造を読み取っている。 (発言・色別カード)
7	・いろいろなふねのまとめをする。	○いろいろな船が役目に合うように造られていることを確認するとともに、基本文型を押さえ、クイズを作る際の自分の表現活動に生かせるようにする。	エ それぞれの船の特徴を正しく読み取り、まとめている。 (発言・ノート)
8	・いろいろな乗り物の本を読む。	○いろいろな本を進んで読めるようにブックトークを行ったり、個別に本を紹介したりする。	ア 乗り物に興味を持ち、進んで本を読もうとしている。 (観察)
9 10	・好きな乗り物を選び、本を読んで調べる。	○本に付箋を貼らせたり、色別カードにまとめさせたりして、それぞれの乗り物の役目や構造の特徴をとらえられるようにする。	エ 好きな乗り物を選び、必要な情報を書いている。 (観察・色別カード)
11 本時	・自分の調べた乗り物をクイズにまとめる。	○基本文型に沿ってクイズを作ることができるように、色別カードを準備する。	ウ 基本文型に沿ってクイズを作っている。 (クイズ)
12 13	・クイズを修正し、発表の練習をする。	○口形について確認したり、カセットテープに録音して聞き合ったりする活動を取り入れ、よりよい話し方ができるようにする。	イ よい話し方を意識して発表の練習をしている。 (観察)
14	・乗り物クイズ大会をする。	○よい話し方（大きな声で・はっきりと・ゆっくり）とよい聞き方（相手の目を見て・うなずきながら）について確認する。	イ わかりやすく話したり、大事なことを落とさず聞いたりしている。 (発表・観察)
15	・友達と感想を伝え合う。	○友達の発表でよかつたところを、理由をあげて話せるよう、よさの観点を示したワークシートを準備する。	イ 発表のよさをとらえ、相手に伝えている。 (発言・ワークシート)

6 本時の学習

(1) 目標

自分の調べた乗り物について、基本文型を生かし、役目と構造を入れてクイズを作ることができる。

(2) 準備・資料

短冊（基本文型を示したもの、見直しの観点を書いたもの）、付箋紙、色別カード、ヒントカード（基本文型を穴埋め式にしたもの）

(3) 展開

時間	学習活動・内容	○教師の支援 ○テーマとの関連 ★評価
5	1 本時の学習課題を確認する。 ヒントを3つよりおおく入れてのりものクイズをつくろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題と流れを把握できるよう、次の2点を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ①基本文型をもとに、自分の好きな乗り物についてクイズを作ること。 ②友達とクイズを評価し合い、自分のクイズを修正すること。
35	2 クイズを作る。 (1) 自分の好きな乗り物のクイズを作る。 (2) 友達と交流する。 良い点 → 桃色の付箋紙 改善点 → 黄色の付箋紙 (3) クイズの修正をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めに、クイズの基本文型について、例文を提示して全体で確認する。 ○ 乗り物のやくめは水色、つくりは桃色、できることは黄色、その他の事項は黄緑色のカードに書くことを確認する。 ○ 役目や構造など、ヒントとなる項目は、必ず3つ以上入れることを押さえる。 ○ 作業が進まない児童には、基本文型を穴埋め式にしたもの渡し、個別に支援する。 ○ 早く作り終えた児童には、二つ目のクイズを作るよう促す。 ○ 友達のクイズを読み、良い点を桃色の付箋紙に書くことを確認する。アドバイスがある場合は、黄色の付箋紙に記入することを話す。 ○ 見直しの観点として、次の3点を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ①文章表現上の順序（やくめ・つくり・できること）に沿っているか。 ②ヒントが3つ以上入っているか。 ③クイズの基本文型に沿っているか。 ○ 友達からのアドバイスをもとに、青鉛筆で修正していくことを話す。 ○ 聞き手の立場に立った分かりやすい表現になっているかどうかや文法上の誤りにも注意するよう促す。 ○ クイズができたら、実際に音声化するよう話し、相手にわかりやすい表現に修正していくようにする。 <p style="text-align: center;">★ 友達と意見を交流しながら、役目と構造を入れて基本文型に沿ったクイズを作ることができたか。（クイズ・話し合い）</p>
5	3 本時の学習を振り返り、次時の学習について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ よくできたことと次に頑張りたいと思うことをノートに書くことで、本時の学習の振り返りとする。 ○ 本時の進み具合を確認し、がんばりを賞賛するとともに、次時はクイズを修正し、クイズ大会前の練習を行うことを確認する。